

第2章

活動報告

work
life
balance
innovation

1. 意識改革

平成 20 年度のアンケート調査より、男性上司の意識改革を求める声が大きかったことを受け、平成 21 年度の「意識改革プログラム」として、本学の管理職に就く職員を対象としたセミナーを 9 月と 12 月に開催した。第 1 回目には実践女子大学教授の鹿嶋敬氏、第 2 回目は東京大学教授の佐藤博樹氏による講演が行われ、管理職職員を中心に、毎回約 50 名の参加があり、セミナーは概ね好評であった。次年度以降も、学内の意識改革促進のため、管理職セミナーを継続していく予定である。

(1)セミナーの開催

①管理職のための「男女共同参画」特別講演会

セカンドステージに入った男女共同参画 ～大学は「21 世紀最重要課題」をどう受け止めるべきか～ 講師：鹿嶋敬氏 実践女子大学教授	
実施日	2009 年 9 月 11 日(金) 14:00-16:00
場所	山形大学小白川キャンパス事務局第 1 会議室 (医学部・農学部・工学部はテレビ会議システムを利用)
対象者	管理職 (役員、学部長、副学部長、学科長、課長職以上の事務職員)
参加者	49 名 内訳：役員 (学長・理事・監事)：6 名、学部長・学科長：4 名、事務管理職：30 名、男女共同参画推進室：6 名、その他：3 名
周知方法	新聞 雑誌 学会誌 データ取材 プレシリース <input type="checkbox"/> メール発信 <input type="checkbox"/> その他(学内の案内状) <input type="checkbox"/>
内容	<p>管理職の意識改革を図るために、理事、学部長、副学部長、学科長及び課長職以上の職員を対象として、実践女子大学教授で、現在、内閣府男女共同参画会議議員である鹿嶋敬氏を迎え、「セカンドステージに入った男女共同参画～大学は「21 世紀最重要課題」をどう受け止めるべきか～」と題した特別講演会を行った。</p> <p>講演では、男女共同参画基本法の施行から 10 年が経ち、その間に何が起きたかという経過についての説明があり、その成果を踏まえ、セカンドステージに入った男女共同参画の具体的な課題や新たな課題解決の実践的な取り組みについて述べられた。また、大学が男女共同参画に対して行うべき課題として、男女の人権の尊重、政策等の立案・決定への共同参画、家庭生活の活動と他の活動の両立という観点から具体的な課題が指摘された。</p>
効果、問題点	<p>○講演会終了後のアンケート (34 名から回収) では、男女共同参画の現状の把握に役に立ったとの評価が高かった。大学組織の上位にいる管理職の意識改革に一定の効果があったと考えられる。</p> <p>例えば、「今回のセミナーは有意義でしたか」という問いに、12 人 (35.6%) が「とても有意義だった」、17 人 (50.0%) が「まあまあ有意義だった」と答え、有意義なセミナーになったことがわかる。一方で、2 人 (5.9%) が「あまり有意義でない」、3 名 (8.0%) が無回答と、今回の内容に不満を持つ人も少数いることが分かる。同様に、「今回のセミナーの内容は理解できましたか」という問いに、10 人 (29.4%) が「よく理解できた」、19 人 (55.9%) が「ま</p>

	<p>あまあ理解できた」と答え、講演の内容も適切だったことがわかる。一方で、2人（5.9%）が「あまり理解できなかった」、3名（8.0%）が無回答と、今回の内容が適切でないと感じる人も少数いることが分かる。</p> <p>また、「次回以降の男女共同参画推進室のセミナーやシンポジウムに参加したいですか」という問いに、15人（44.1%）が「参加したい」、15人（44.1%）が「テーマによっては参加したい」、4人（11.8%）が「日程によっては参加したい」と回答しており、次回以降のイベントへの参加意欲は高い。</p> <p>○キャンパスの離れている医学部、農学部、工学部とは、テレビ会議システムを利用し参加を求めたが、参加者が少なかった。</p> <p>内容は日本の男女共同参画の概説の部分が長く、大学の男女共同参画に関しての内容は短かった。アンケートからも「今回は概論的なお話で男女共同参画の理念を理解するうえで有効でしたが、今後大学としての取り組みの良い例等をお話ししてほしいと思います」との声もあった。</p> <p>アンケートからは会場の音声が小さく聞き取りにくかったとのコメントがあった。</p>
反省事項	<p>上記の問題点に関して、キャンパスの離れている学部へは、早めに積極的に周知を行い、意識的に参加を促すべきである。また、男女共同参画推進室のホームページでの周知も必要である。アンケートでは、「今回のセミナーをどのようにして知りましたか」という問いに対して、「男女共同参画推進室のホームページ」と答えた人が3名（8.7%）でしかない。</p> <p>また、内容に関して、日本の男女共同参画の概要について今回のセミナーでおおむね管理職には周知できたので、今後は大学に焦点を絞ったセミナーやシンポジウムが有効だろう。他大学の取り組みの紹介や、大学の経営戦略の一環としての男女共同参画についてのセミナーやシンポジウムを計画したい。</p>
特記事項	<p>質疑等の時間が短かったので、講演会とはいえ参加者からの質問など、双方向のやりとりがあった方が、参加者の意識改革という面では有効だったかもしれない。</p>

【セミナーの様子】



【アンケート調査票】

山形大学男女共同参画推進室 2009年9月11日

女性研究者支援のための意識改革セミナー アンケート

—管理職のための「男女共同参画」特別講演会—

本日はセミナーにご参加いただきありがとうございました。山形大学男女共同参画推進室が今後開催する各種セミナーやイベントの参考にさせていただきたいので、今回のセミナーの感想や要望をご記入いただきますようお願いいたします。

Q1 ご自身についてお聞きします。(1つに○をつけて下さい)

①性別

・女性 ・男性

②年代

・30歳未満 ・30代 ・40代 ・50代 ・60歳以上

③ご所属

・役員等 ・教員 ・職員

・その他(具体的に)

Q2 今回のセミナーへの参加は有意義でしたか。(1つに○をつけて下さい)

・とても有意義だった ・まあまあ有意義だった ・あまり有意義でない ・全く有意義でない

Q3 今回のセミナーの内容は理解できましたか。(1つに○をつけて下さい)

・よく理解できた ・まあまあ理解できた ・あまり理解できなかった ・全く理解できなかった

Q4 今回のセミナーは、どのようにして知りましたか。(あてはまる全てに○をつけて下さい)

・大学内の案内メール ・大学内の案内状 ・大学内の知人 ・大学外の知人
・男女共同参画推進室のホームページ ・その他(具体的に)

Q5 次回以降、男女共同参画推進室のセミナーやシンポジウムに参加したいですか。(1つに○をつけて下さい)

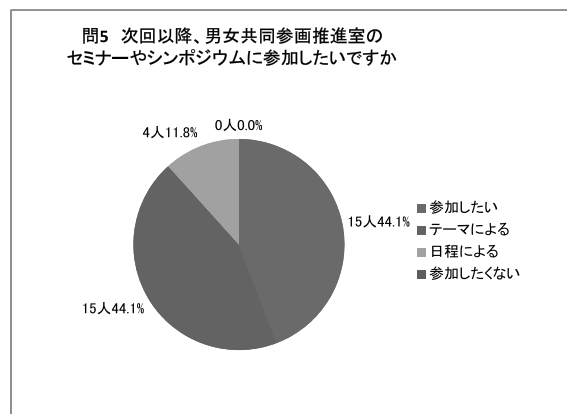
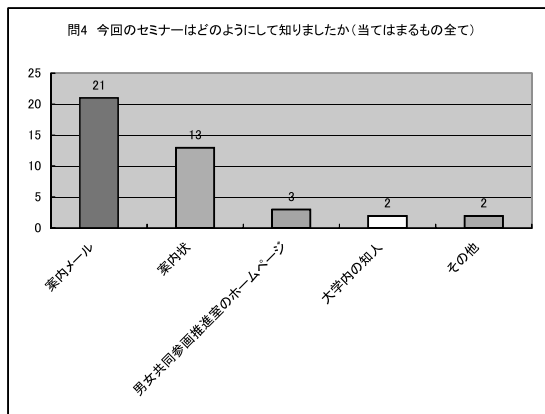
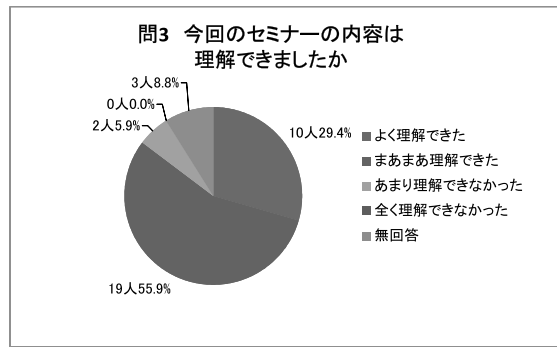
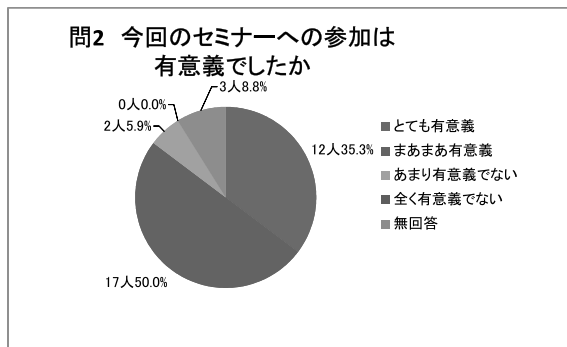
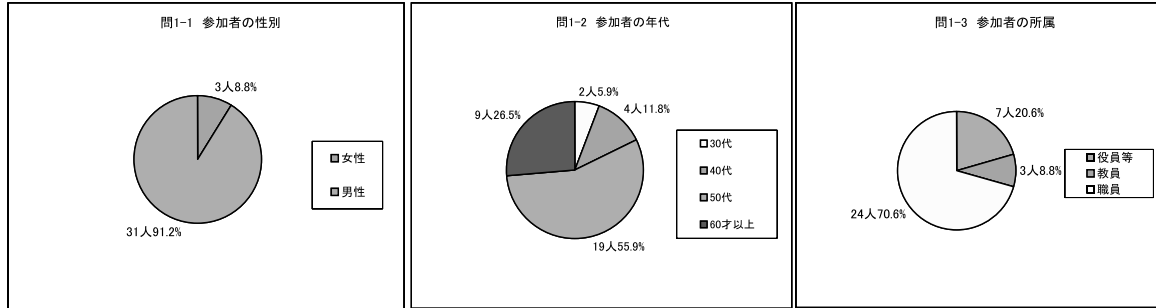
・参加したい ・テーマによる ・日程による
・参加したくない ・その他(具体的に)

Q6 次回のセミナーやシンポジウムで取り上げてほしいテーマがあれば、具体的にお書きください。また、今回の感想などご自由にお書きください。

ご協力いただきありがとうございました。

【アンケート調査結果】

管理職のための「男女共同参画」特別講演会アンケート 結果概要



問6 次回以降の要望や感想の自由回答

1	今回は概論的なお話で男女共同参画の理念を理解するうえで有効でしたが、今後大学としての取り組みの良い例等をお話してほしいと思います。
2	ワークライフバランスから見た超過勤務の削減
3	質問できなかったのですが、多様な生き方の尊重とか多様な人材の活用など、多様なという言葉のすり替えが雇用形態を破壊し社会の仕組みを変えてしまったのでは。
4	意識・認識を新たにできるテーマで引き続きお願いしたい。
5	ワークライフバランスは、なるほどと納得した。精神衛生にも効果がある生き方ですね。
6	介護と育児。
7	音声小さく聞きづらかった。具体的な例があれば良かったし、方向性がまだ明確になっているとはいえないようである。

以上

②管理職のための「男女共同参画」特別講演会

ワークライフバランスを実現するために：管理職の役割と働き方の改革 講演者：佐藤博樹 東京大学社会科学研究所教授	
実施日	2009年12月2日(水) 15:30-17:30
場所	山形大学小白川キャンパス事務局第1会議室 (農学部・工学部はテレビ会議システムを利用)
対象者	管理職(役員、学部長、副学部長、学科長等の教員、課長職以上の職員)
参加者	50名 内訳：役員2名、管理職の教員7名、管理職以外の教員2名、管理職の職員22名、管理職以外の職員8名、学生4名、男女共同参画推進室5名
周知方法	新聞 雑誌 学会誌 データ取材 プレシリス <input type="checkbox"/> メール発信 <input type="checkbox"/> その他(学内の案内状) <input type="checkbox"/>
内容	<p>本年(平成21年)9月12日に開催した「女性研究者支援のための意識改革セミナー—管理職のための「男女共同参画」特別講演会—」(講演者：鹿嶋敬実践女子大学教授)に引き続き、佐藤博樹東京大学社会科学研究所教授を講師として、「ワークライフバランスを実現するために：管理職の役割と働き方の改革」を開催した。</p> <p>講演では、ワークライフバランス(WLB)とワークライフコンフリクトの説明、WLBが求められるようになった背景、3つの取り組みからなるWLB支援(WLB支援のための制度の導入と制度を利用できる職場作り、社員の「時間制約」を前提とした仕事管理・働き方の実現、多様な価値観、生き方、ライフスタイルを受容できる職場作り)などが講演された。</p>
効果、問題点	<p>計画の初年度である本年度では、大学で上位にいる男性管理職の意識改革に重点を置いている。多くの管理職が講演に参加することができ、また、講演内容も管理者にとって身近な部下の仕事管理やWLBを支援する職場作りに関してであったため、有意義な講演になったようである。</p> <p>講演会終了後のアンケート(37名から回収)では、セミナーの理解度では、17人(45.9%)が「よく理解できた」、20人(54.1%)が「まあまあ理解できた」と答えている。満足度では、19人(51.4%)が「とても有意義」、17人(45.9%)が「まあまあ有意義」と答えている。講演の内容が適切だったことがわかる。</p> <p>その他自由回答でも以下のような声があった。「ワークライフバランスという言葉ははじめてだったが、とてもすばらしいネーミングだと思った。この一声で人の一生に起こる全ての困難への支援を連想できる。」「もっと若いときに話が聞けたら、考え方が変わっていたと思う。今回は管理職のためとなっているが、若い人にも聞くチャンスを設けてほしい。」</p> <p>参加者別では、多くの管理職に参加してもらえたほか、ポスターやメール等で学内に広く周知したため、管理職以外の教職員の他、学生の自主的な参加を得ることもできた。</p> <p>農学部、工学部とは、テレビ会議システムを利用したため、参加者がいたが、医学部では当日他の会議でテレビ会議システムを利用するため、本講演の中継ができなかった。そのため、同市内であるが別キャンパスの小白川キャンパスまで来てもらわなければならない、結果、医学部からの参加者はいなかった。講師の都合等もあるが、日程調整を早めに行うべきであった。</p> <p>一部の参加者の都合上、講演が17:30までとなり、業務時間内の17時を超えてしまった。そのため、WLBを実現するという講演の内容と講演時間</p>

	が矛盾しているとの指摘を受けた。
反省事項	さらに多くの参加者を得るために、講演会終了後のアンケートにて、今後のセミナーやシンポジウムに参加しやすい開始時間、曜日を聞いている。時間に関しては、37人中13人(35.1%)が15時頃、6人(16.2%)が16時頃と午後の遅い時間の開始を望んでいる。また曜日は満遍なく散らばっているため、特に参加しやすい曜日があるわけではないようである。

【セミナーの様子】



次回以降のセミナーについてお聞きします。

⑧ 次回以降のセミナーで聞きたいテーマを選んでください。(あてはまる全てに○をつけて下さい。) また、取り上げてほしいテーマがありましたらご自由にご記入ください。

- ・大学のワークライフバランスの取り組み
- ・企業のワークライフバランスの取り組み
- ・女性研究者増加のための取り組み
- ・男女共同参画と大学経営
- ・育児と仕事の両立について
- ・介護と仕事の両立について
- ・趣味と仕事の両立について
- ・仕事の効率を高めるタイムマネジメント
- ・ストレス予防、メンタルヘルスについて

・その他取り上げてほしいテーマがあれば、具体的にご記入ください。

⑨ セミナーに参加しやすい特定の開始時間がありますか。あるかないかを選び、ある場合はあてはまる時間全てに○をつけて下さい。

- ・ある ・特になし
- ↓
- ・9 時頃から ・10 時頃から ・11 時頃から ・12 時頃から ・13 時頃から
- ・14 時頃から ・15 時頃から ・16 時頃から ・その他 (時頃から)

⑩ セミナーに参加しやすい特定の曜日はありますか。あるかないかを選び、ある場合はあてはまる曜日全てに○をつけて下さい。

- ・ある ・特になし
- ↓
- ・月曜日 ・火曜日 ・水曜日 ・木曜日 ・金曜日 ・土曜日 ・日曜日

⑪ セミナー開催はどのくらい前にお知らせするとよいでしょうか。(1 つに○をつけて下さい。)

- ・2 か月前 ・1 か月半前 ・1 ヶ月前 ・2 週間前 ・1 週間前
- ・その他 (ご自由にご記入ください)

その他、男女共同参画推進室への要望などご自由にお書きください。

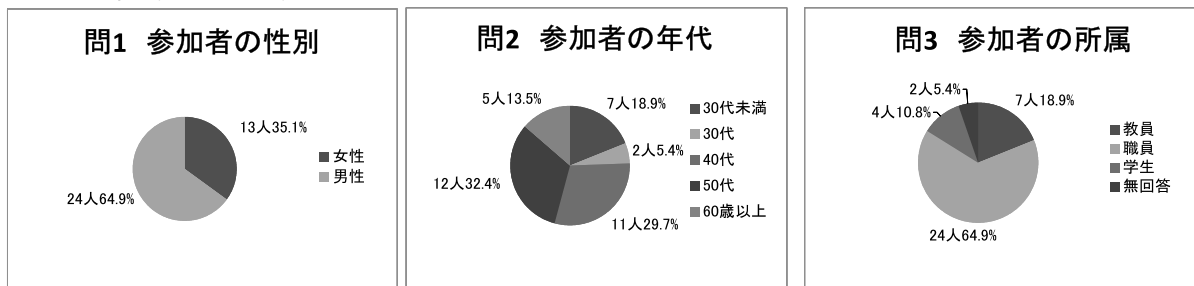
アンケートにご協力頂きありがとうございました。アンケートは退出時にアンケート回収箱にお入れください。(テレビ会議にてご参加の方はお手数をおかけしますが、学内便にて男女共同参画推進室までご郵送ください。)

【アンケート調査結果】

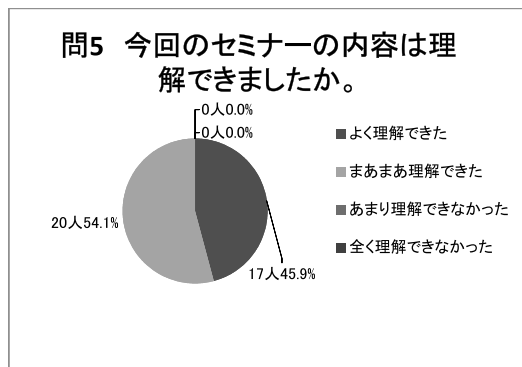
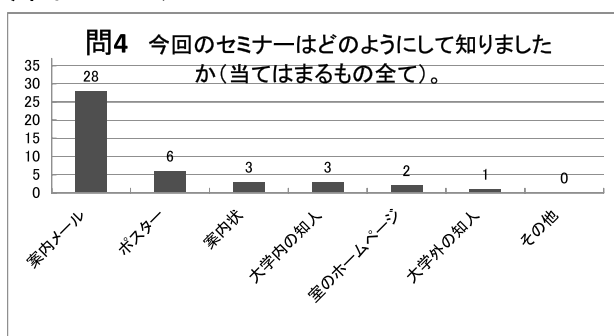
管理職のための「ワーク・ライフ・バランス」特別講演会アンケート

2009年12月2日開催

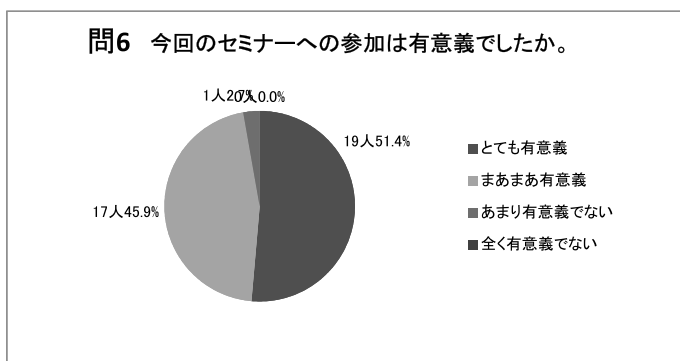
50人参加中37人アンケート回収



今回のセミナーについて



1

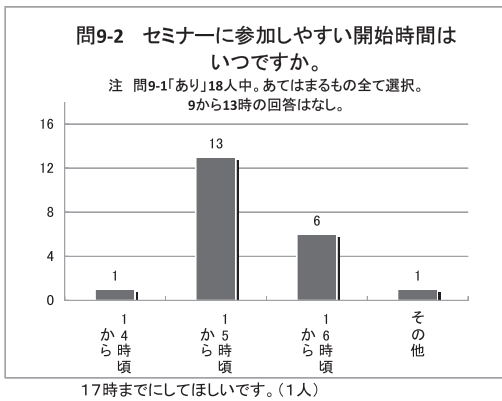
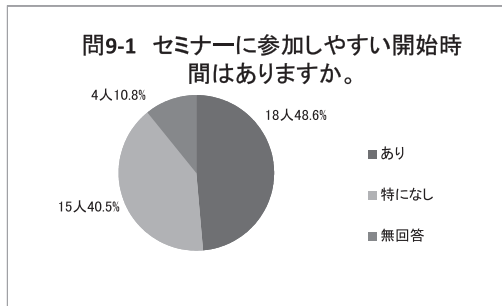
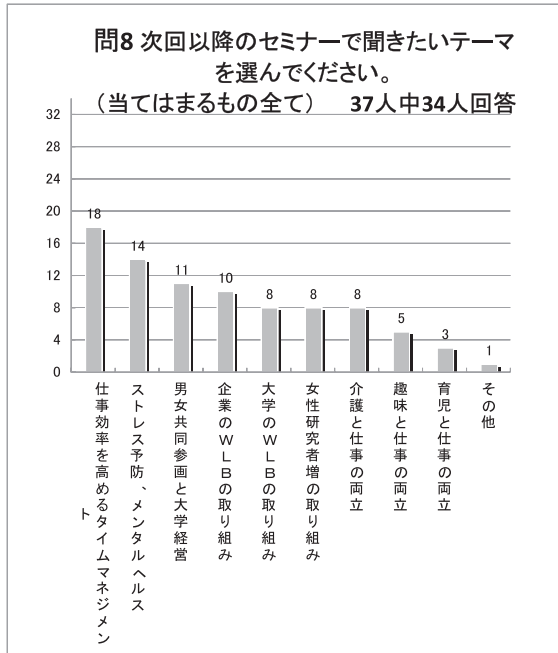


問7 今回のセミナーの内容で印象に残った話や感想があればご自由にお書き下さい。

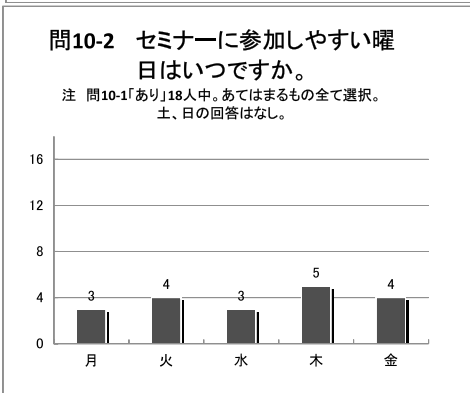
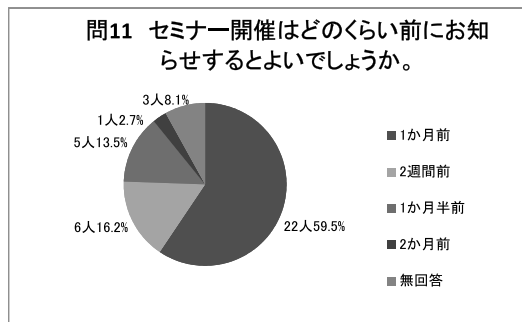
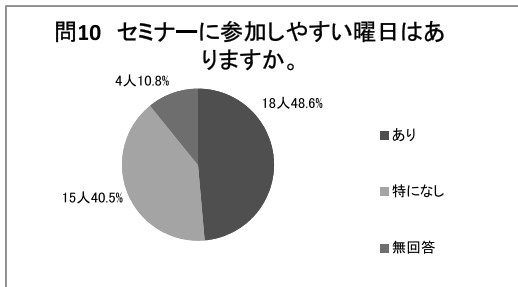
講師にもいろいろありますが、ビデオの方がわかりやすい話ならなくて良いと思いました。
時間を資源と考える点に共感しました。
・時間の使い方＝時間かけるばかりではダメ。・部下に能力を超える仕事は、部下の能力を伸ばす。
時間生産性を上げるために職員の意識をぜひ変えていきたい。第2弾のビデオをぜひ見てみたい。推進室で購入して貸し出してほしいです。
DVDをみてオドロキ。スケジューリングすらせずに働いている人がいるって本当??この大学にそんな人がいたらイヤだなあ。学生ですらやっているのに。
職場環境によってかなり違うというのが分かった。
学部の総務に何でもメールで丸投げしてくる事務局サイドの考え方。
学部の総務に頼れば何でもしてくれると思っている教員サイドの考え方が変わらない限り、学部の事務が残業しなくなるということはないと思います。
自分のこれまでの生活を考え直すキッカケになった。これからもどうか。
WLBは福利厚生ではなく、働き方を変え、企業の効率さを改善することだと分かりました。
家でもよく両親がもめているので、自分にもこの話を参考に何かしてみたいと思います。
WLBの必要性について認識しなければならない。今直ぐにでも。どの部署も同じ。
WLB支援利用者の仕事をカバーさせる人は、できる人ではなくやったことのない人にする(23P)。
仕事を任せることが、職員の意欲を引き出し、能力開発につながるというお話し。
ワーク・ライフ・バランスという言葉ははじめてだったが、とてもすばらしいネーミングだと思った。この一声で人の一生に起こる全ての困難への支援を連想できる。

2

次回以降のセミナーについて



3



第3第4以外の火曜日を希望(1人)

その他 男女共同参画推進室への要望等

もっと若いときに話が聞けたら、考え方が変わっていたと思う。
今回は管理職のための...となっているが、若い人にも聞くチャンスをつけてほしい。
学生の参加方法を宣伝に入れて下さい。
このようなセミナーは大切だと思う。
米沢キャンパスで職員がひとりも聞いていなかったのは、大変な損失だと思う。もっと強制力をつけても良いのではないだろうか。

以上。

4

(2)男女共同参画フェスタの開催

男女共同参画についての理解を深める機会を提供するため、平成 21 年 6 月 16 日から 6 月 29 日まで、附属図書館にて山形大学男女共同参画フェスタを行った。2 週間のフェスタ期間中、図書館を訪れる人の目に触れるよう、男女共同参画関係の図書を展示し、更に、ジェンダー関連の映画を上映した。来年度以降も、男女共同参画週間に合わせて、フェスタを開催する予定である。

山形大学男女共同参画フェスタ	
実施日	2009 年 6 月 16 日(火) ～6 月 29 日(月)
場所	山形大学 附属図書館
対象者	一般 学生(中学・高校・大学) その他()
来場者	人数：上映会 51 名
内容	<p>★図書館入口における文献のディスプレイ【6月16～29日】</p> <p>男女共同参画社会の重要なキーワードである<ワークライフバランス>を中心とする最近の文献を紹介。また、図書館所蔵の関連図書や自治体・大学等での取組みを紹介。</p> <p>★館内シアターでの映像資料紹介【6月17日・24日】</p> <p><女らしさ/男らしさ>について再考できるよう、実話をもとにした映画の上映会を実施。学生を中心に50名程度が参加した。</p> <p>① 『プリティ・リーグ』</p> <p>戦中のアメリカに誕生した女性のプロ野球チームをモチーフに、当時の「女は野球などしない」という社会通念とチーム存続の問題や、女性選手の心の葛藤が描かれている。</p> <p>② 『イン & アウト』</p> <p>「男らしくない」とされる性向をもつ男性教師が、恋人や両親、生徒や映画俳優となった卒業生と織りなす人間関係を通して、「個」の尊重について考えることができる。</p>
効果、問題点	<p>展示は、図書館入口であったため、市民を含む多くの入館者の目に入ったと思われる。上映会への参加は学生が中心であったが、アンケートには、性別に関する偏見が個人の職業(女性野球選手・ゲイと噂された教師)に与える影響について考察したコメントが多く寄せられた。また、女性への偏見を払拭するための過去の女性たちから刺激を受けたとするコメントもみられた。</p> <p>授業や公務員講習などの時間、および教職員の勤務時間との調整などがやや困難で、上映時間が限定されたため、学外者の参加が得られなかった。</p>
反省事項	<p>担当者同士にとどまらず、事前に部局をまたがる打ち合わせをしておくほうが良かった。</p> <p>図書館等との協力は、全学的、また学外者にも波及効果が望めるので、うまく連携すると効果があると思われる。</p>
特記事項	なし。